

オーストラリアから英語のボランティアです

ボランティアとして愛護会のパンフレットやタンチョウ保護の歴史について英訳をお願いし、オーストラリアとメールでやりとりをしました。今後、愛護会では英語のホームページを作成予定です。



マイク・イーブリさん一家

〈マイクさんから頂いたメール〉

北海道の野生の丹頂の写真をテレビ番組で初めて見ました。冬の早朝の丹頂の写真はとても美しく、丹頂やその生息地についてもっと知りたいと思っていました。私はウェブサイトを見つけ、ボランティアとして貴組織にアプローチすることに決めました。すぐにでも、私の日本人の友達と一緒にその聖域に行き、丹頂を見ることがあります。ありがとうございます。(マイクイーブリ)

丹頂鶴音頭



「丹頂鶴音頭」の輪を広げています!!

丹頂ほろろん会 事務局長 荒木 千枝子

去る6月17日に開催された阿寒小学校の運動会に受けて毎年恒例になりました「丹頂鶴音頭」出前講習会をおこないました。

今回は委員会の児童だけではなく全教職員にも参加して頂き「丹頂鶴音頭」の振り付けが湿原に生息する丹頂の仕草をまねたものだという事を理解していただき、会員指導のもと一つ一つの動作を練習した結果が本番では見事に花開いたというか、とても上手に出来たと思います。

これもひとえに先生達が一丸となって熱心にご指導されたおかげです。

これからも「丹頂鶴音頭」の灯を消すことなく運動会や阿寒ふるさと祭りなどその他のイベントでも踊る機会を作って下さることを心から願っています。



運動会で丹頂音頭を踊る子ども達



7月22日 阿寒ふるさと祭りでの様子

鶴だより

釧路市動物園 ふれあい主幹
松本 文雄



タンチョウ受難

5月9日朝に愛護会の高野事務局長から電話がありました。「国道をタンチョウが横断している。怪我をしているようだ。」直後に鶴公園からも連絡があり、怪我したタンチョウがいると電話があったとのことでした。ほぼ同じ場所なので、同一個体と推測し、環境省に連絡した後に現地に赴きました(野生の傷病タンチョウの保護は環境省が行なっています)。

現地に着くと国道沿いの牧草地に、そのタンチョウは居て、通りかがりの人が見守っていました。片足あげて痛そうです。上げた足を下ろしてぎこちなく歩みます。どこか足を打ったのでしょうか? 足にはリングが付いていて「292」と刻印されています。2016年に鶴公園で生まれて、外に出て行った鳥でした。時々、阿寒や動物園周辺で見かけていましたが、しばらく見られていませんでした。

環境省のレンジャーも到着し、捕獲することになりました。他の職員も応援に駆け付け、4人でゆっくりと取り囲みます。ツルは危険を察知してゆっくりと歩み始めますが、うまくは歩けません。ただし、飛ばれてしまっては一巻の終わりです。慎重に距離を縮めます(あまり知られていませんが、タンチョウは助走無しでも飛び上がれます。足を痛めていても、飛んで逃げる可能性があるのです)。数メートルまで近づいたところで、逃げようとしたが、足が痛いのでしょうか、座り込んでしまいました。素早く飛びついで、無事に捕獲することが出来ました。やはり足の「ふしょ」(立っているツルの足の中央あたりにある関節、人間でいうと「膝」の位置になりますが、実は「かかと」です)のあたりを痛めているようで、すぐに動物園に搬入しました。



骨折して足をあげているタンチョウ

動物園でレントゲンを撮って調べてみたところ、「ふしょ」の近くを骨折していました。骨折していても歩いていたのですね。骨をつなぐ手術を行いましたが、鳥の骨は軽くなっていますが、なかなかつながりません。骨はつながりましたが、まだ、ハンモックに座らせての安静状態です。

近年はタンチョウの数も増え、湿原を離れたところで生活するツルも増えてきました。道路沿いで見かけることも多く、道路を渡るツルもしばしば見かけられます。そのため交通事故も増えてきました。本来の生息地である湿原に住みかが足りなくなつて、人家のそばに来ていますが、新たな危険にも直面しているのです。道東方面を車で移動するときはタンチョウにも十分気を付けてください。